

子ども相互参観の様子（2・3年生）



七つ星

校訓 「志高く」



ほめること みとめること 校長 前田 倍成

「SDG's (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)」*1ということばをよく耳にするようになりました。SDG'sについては、高学年の子どもたちが教科や総合の中で、ゴミ問題、食品ロス問題などの側面から学習するなど、地球環境保全に関するイメージが強いかもしれませんね。しかし、この中には、目標4 [教育]として、すべての人に公正な質の高い教育を確保することが掲げられています。

教職員支援機構の新庄直矢氏は、あるコラム*2の中で、持続可能な社会とは「一人一人が自分らしく生きること」ができる社会であるとし、そのためには多様性を尊重できる自己肯定感、自己有用感を育むことが不可欠であるとしています。

本校にも「(自分なんか) どうせ…やし」と言ってしまう子たちがいますが、日本の若者は諸外国の若者に比べ自己肯定感が低いという調査結果(2019 内閣府)が明らかになっています。

わたしたち教師も、きっとご家庭でも、子どもの肯定感、有用感を高めようと、できるだけ「ほめよう」「認めよう」と心がけます。しかし、先の新庄氏は、『ほめる』ことは大切なことだとしながらも、言葉のかけ方には留意すべきだと、次のように指摘しています。

- ・大人目線(上から目線)で目の前の結果、現象だけをほめることになっていないか
- ・…無意識に他者との比較が多くなり、結果、子どもを傷つけている可能性がある
- ・単に「えらい、すごい」と言うだけで、どこがえらいのか、何がすごいのかを具体的に伝えているか…何もしないのにほめることは、子どもが努力する力を奪いかねない

*1 SDG'sは、誰一人取り残さない、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられ、2030年を達成年限とする17のゴールと169のターゲットから構成されています。(外務省 SDG'sパンフレット)

*2 独立行政法人教職員支援機構メールマガジンNITSニュース第192号「研修プロデューサーより」2022.6

一方で、子どもを『認める』ということは、他者との比較や結果だけにとらわれず、子ども一人一人が努力してきた過程や成長の軌跡を価値付けることです。つまり、『認める』という行為は、大人が子どもの目線に降り、その子どもの目線からその子なりのがんばりや伸びを見いだすことにほかなりません。

したがって、『認める』ことは、「ほめられたいからやる」といった外発的な動機ではなく、自分に自信をもち「やりたいから、楽しいからやる」といった内発的な動機を強化することにつながる可能性が大きいというわけでは

新庄氏は、「『ほめる』と『認める』は似て非なるものです。今すぐに芽が出ずとも、その努力や、意欲的に取り組んだことを『認めて』いくことが、持続可能な社会づくりを担う子どもたちの自己肯定感を高めることにつながるのでは」と締め括っています。

わたしは、これを読みながら、学校のことはもちろんですが、自分の子にもどんな声かけをしてきたか、ふり返ることしきりでした。保護者のみなさんはいかがでしょう。



SDG'sのアイコンポスター

保護者の皆様へ

【授業参観・懇談会へのご参加ありがとうございました】

保護者の皆様には、ご多用の中にもかかわらず、ご参加いただき本当にありがとうございました。学校全体では83.2%（4月参観日との比較±0%）の参観率となり、学年によっては、93%を超えるところもありました。懇談会等でいただいたご意見は今後また本校の教育活動に生かしてまいります。当日の様子は、学校HP「今日一枚」のコーナーにも掲載してございますのでよろしければご覧ください。

【7月1日は『国民安全の日』です】

先日の能登半島での地震では、大きな不安を感じられた方も多かったことと思います。こうした災害に備えて学校では、火災、地震などを想定した避難訓練等を実施しています。しかし、子どもたちが自宅にいるときに災害が起きたとしたらどうでしょうか。また子どもたちが外へ遊びに出かけているときに起こったとしたらどうでしょうか。そのようなときの避難場所や避難方法などについて、改めてご家庭で約束を確認し合っておくことは、ご家族の安心・安全を担保することにつながります。

この『国民安全の日』をよい機会として、お子様と話し合っただけだと幸いです。

7月8日には、くしゃがお・かくれる・じっとするの「3つの安全行動」を実践する県民一斉防災訓練「シェイクアウトいしかわ」が実施される予定です。志賀小も参加します。

